

# 沖縄県内で活動する芸能実演家と スタッフの活動実態についての アンケート調査 報告書

一般社団法人沖縄県芸能関連協議会(沖芸連)

# 調査概要

---

調査主体	一般社団法人沖縄県芸能関連協議会（沖芸連）
調査設計	林 知一（弁護士） 大澤寅雄（NPO法人アートNPOリンク 理事長）
調査分析	大澤寅雄
調査対象	沖縄県内に居住または沖縄県内で主に活動する芸能・舞台 芸術関係者個人
調査期間	2020年1月25日～2月7日
調査方法	インターネット調査（ウェブアンケートフォームを活用） 郵送による配布・回収
回収数	384件

# 調査内容

---

1. 回答者の属性
2. 回答者の仕事
3. 仕事の環境
4. 新型コロナウイルス関連

# 調査結果の要約 (1/3)

---

- 本調査の回答者は、伝統芸能実演家を活動分野とする方が9割で、性別では女性が7割、年齢層では60歳以上が過半数となっている。
- 芸能・芸術活動とは異なる仕事をしている（兼業）と、技芸を教える仕事を等を含めた芸能・芸術活動のみをしている（専業）が回答者全体の5割ずつとなっている。
- 1年間の総収入は200万円未満が回答者全体の過半の割合となっており、総収入に占める文化・芸能による収入の割合は2割未満が過半となっている。

# 調査結果の要約 (2/3)

---

- 文化・芸能の仕事で「全く契約書は交わしていない」が5割で「ほとんど契約書を交わすことがない」も3割近くとなっている。一方、契約書は必要だと考える意見は6割（「必要だと思う」3割＋「まあ必要だと思う」3割）となっている。
- 文化・芸能の仕事をするうえでの問題は、「衣装代や機材費など自腹での支出額が多く、報酬額が見合わない場合がある」が6割で最も多い。次いで「報酬の金額や報酬に含まれない経費がはっきりと示されないことがある」、「仕事の内容や拘束時間などの条件がはっきりと示されないことがある」が続く。

## 調査結果の要約 (3/3)

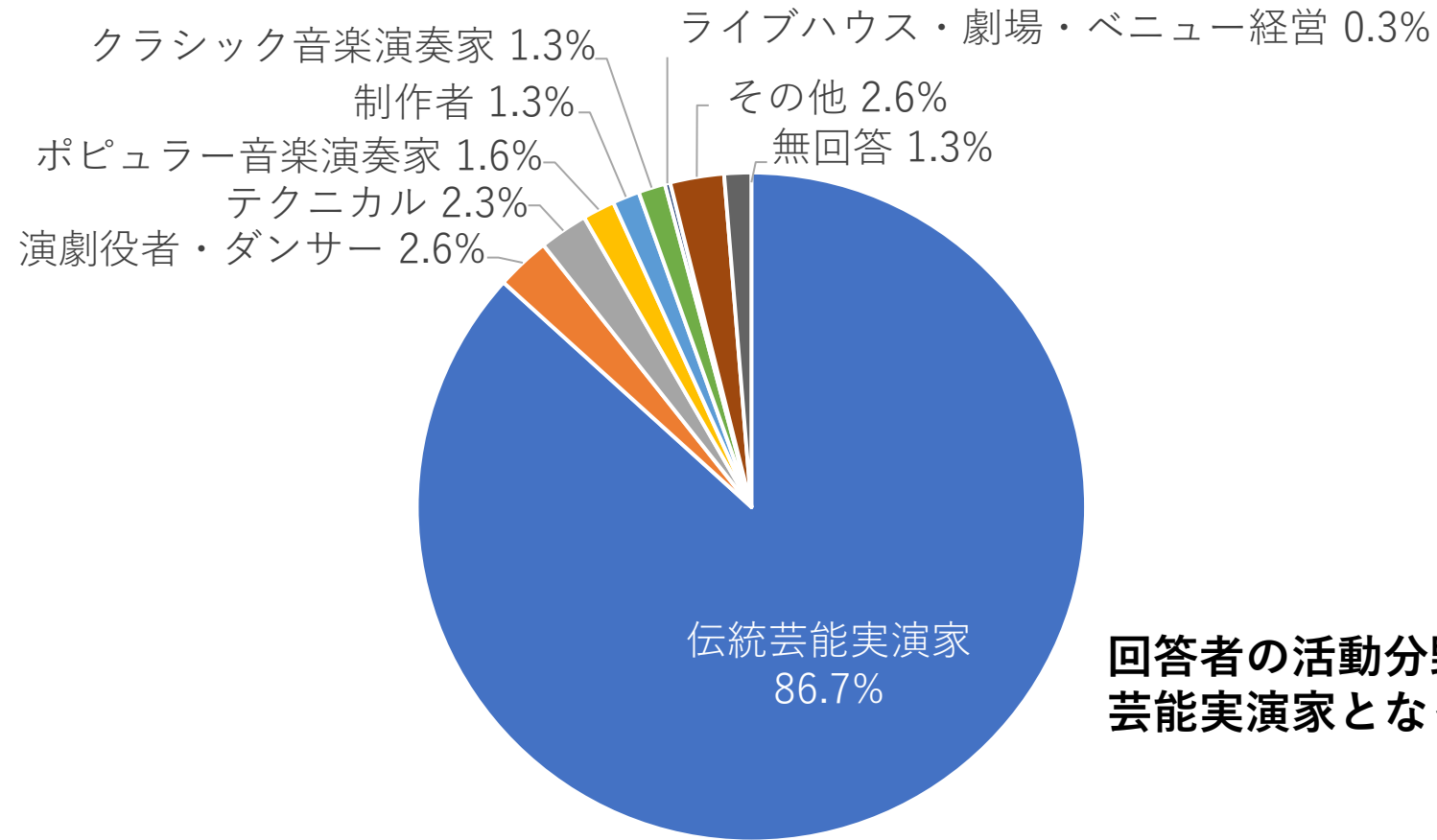
---

- 10年後も今の仕事を続けていると思うかを聞いたところ「はい」が55%、「いいえ」が43%となっている。続けていると思わない理由は、「年齢的に現役でなくなると思うから」が76%で最も多い。
- 10年後も今の仕事を続けていると思わない回答者の理由について「59歳以下」の回答者で最も多い回答は「収入が安定しないから」が46%、「収入が低いから」が35%となっている。

# 1. 回答者の属性

---

# 主たる活動分野



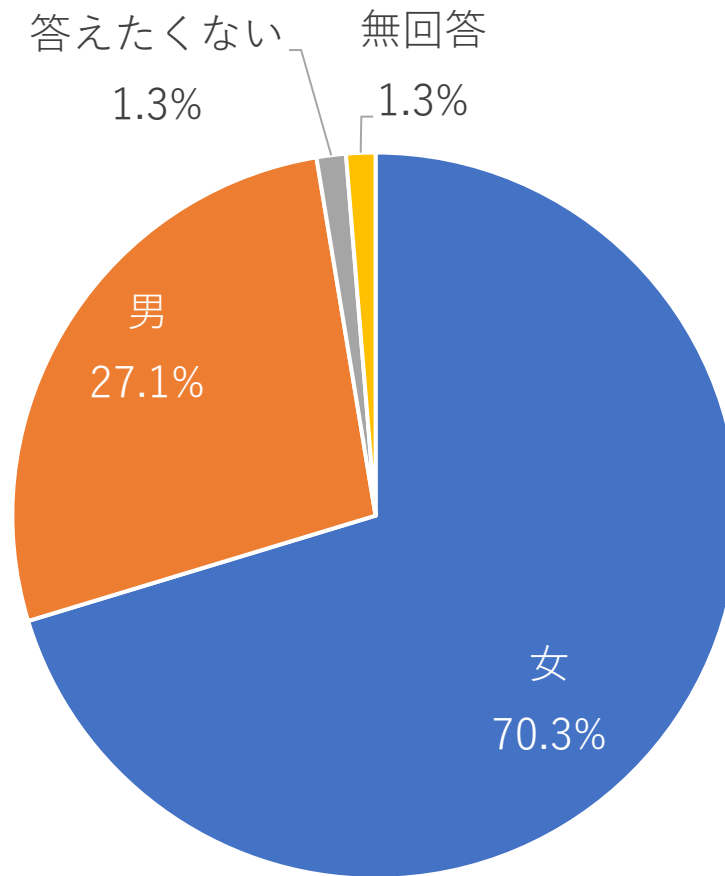
回答者の活動分野は87%が伝統  
芸能実演家となっている。

n=384



# 回答者の性別

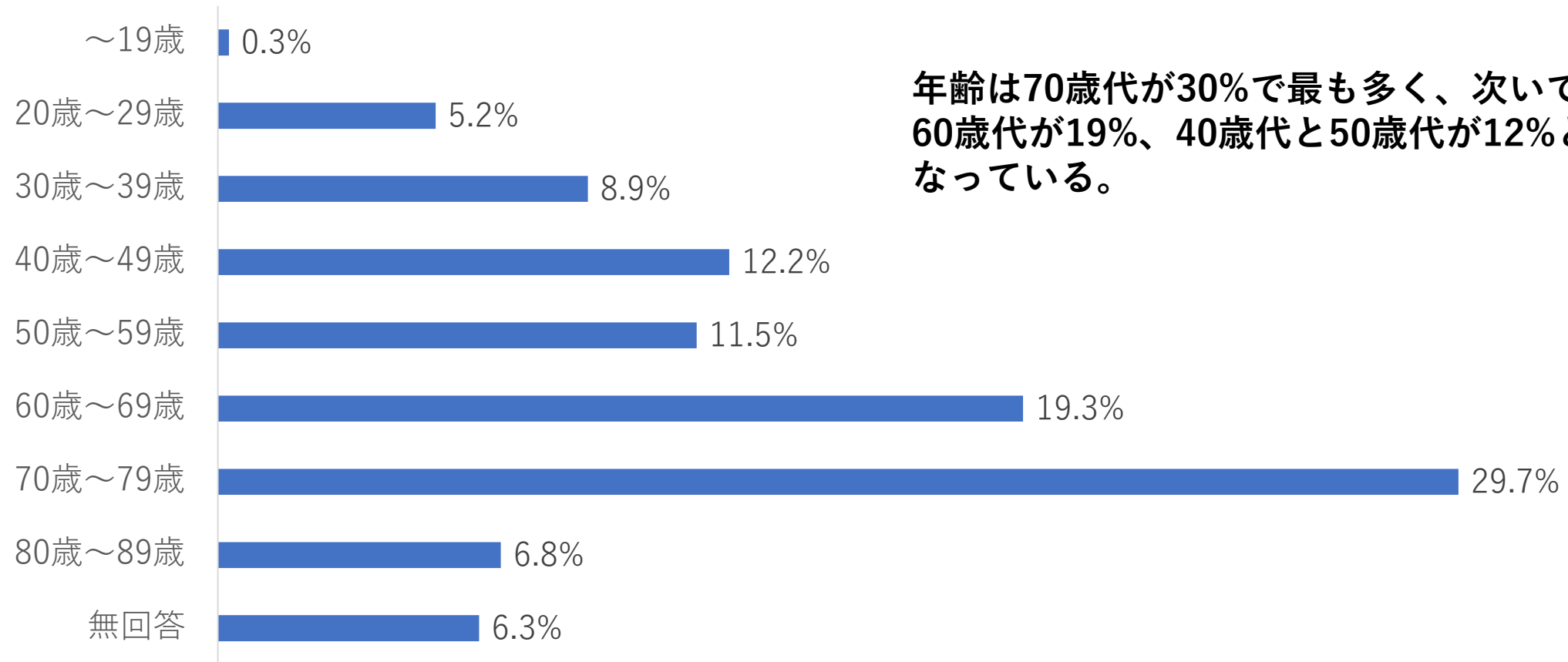
---



回答者の性別は70%が女性、  
27%が男性となっている。

n=384

# 回答者の年代

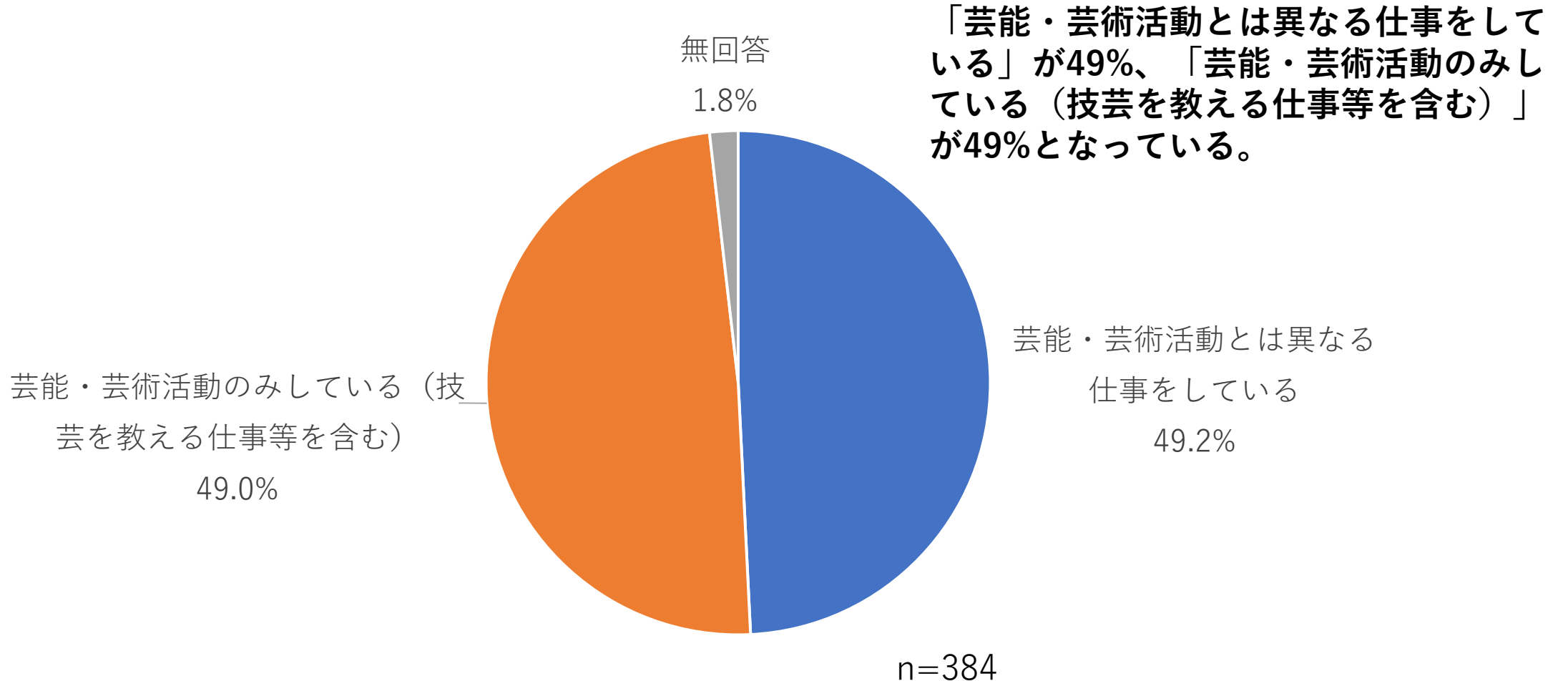


n=384

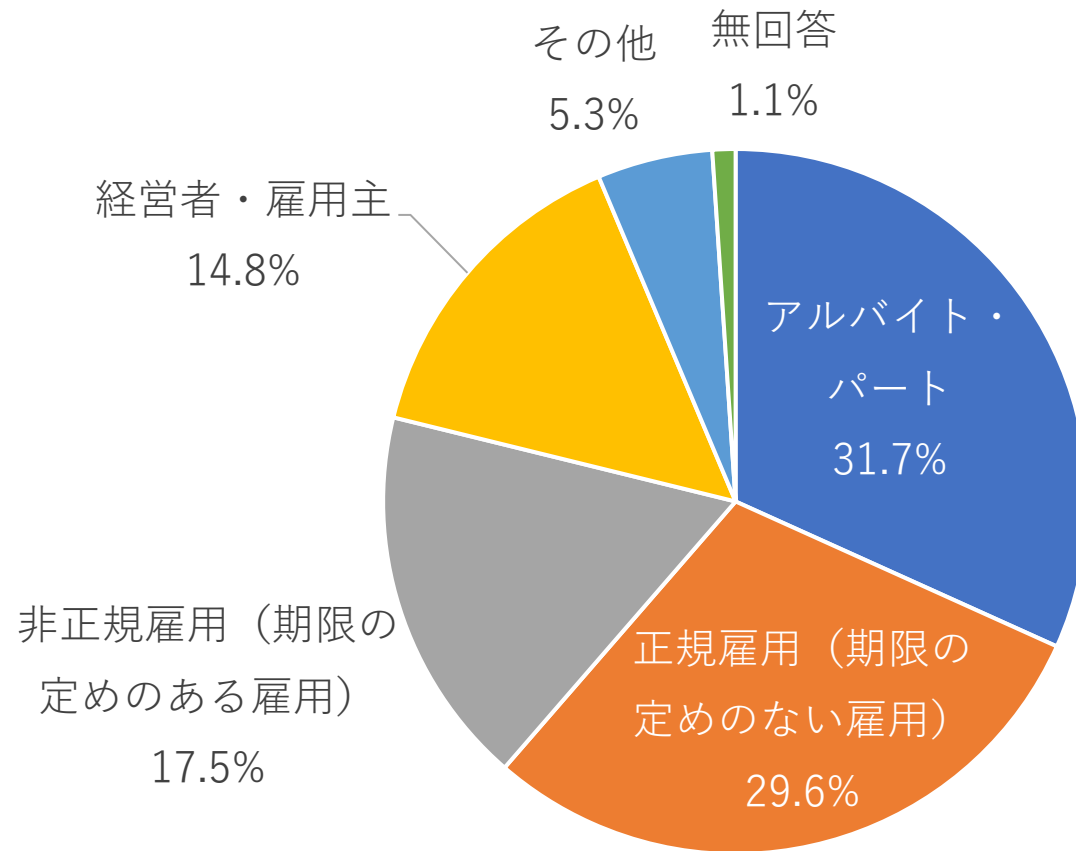
## 2. 回答者の仕事

---

# 芸能・芸術活動以外の仕事



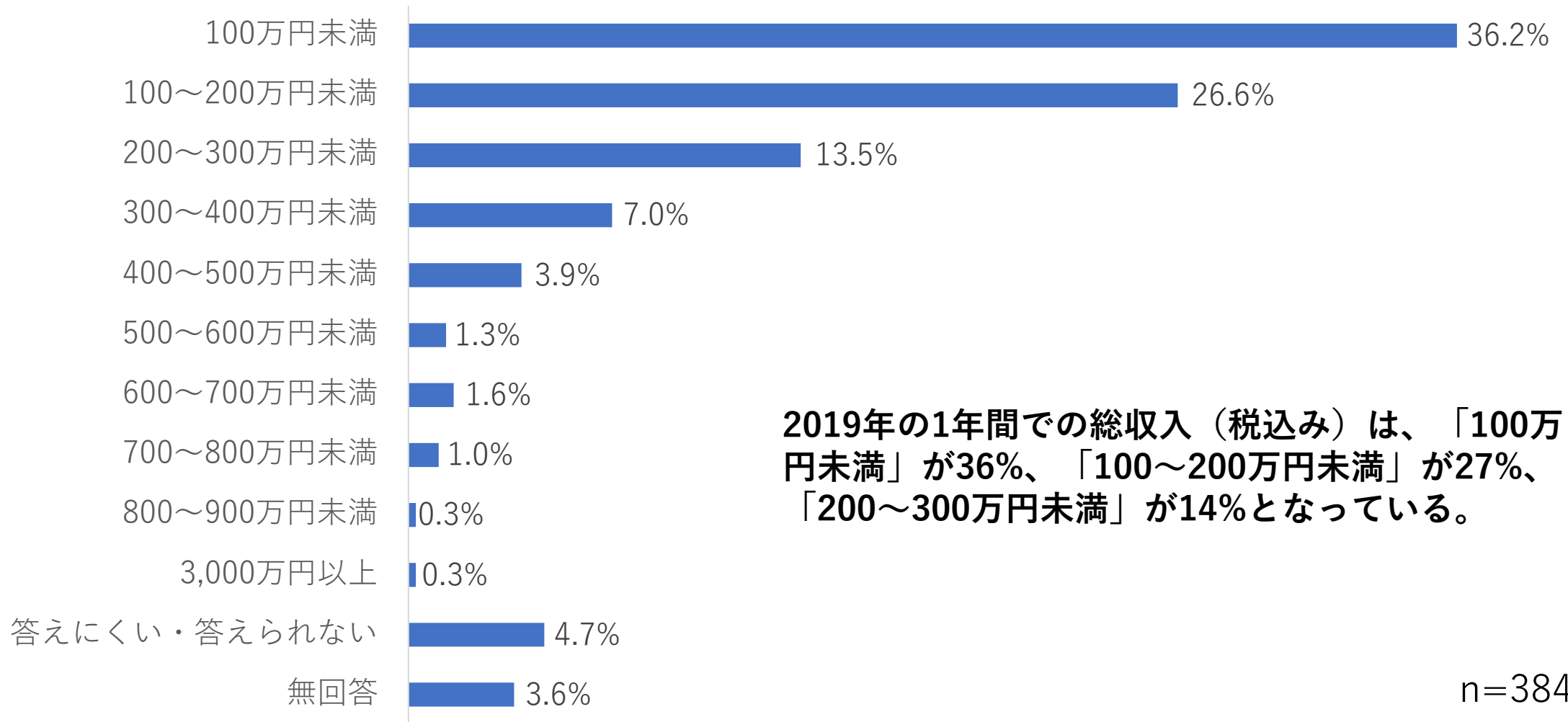
# 芸能・芸術活動とは異なる 仕事の雇用形態



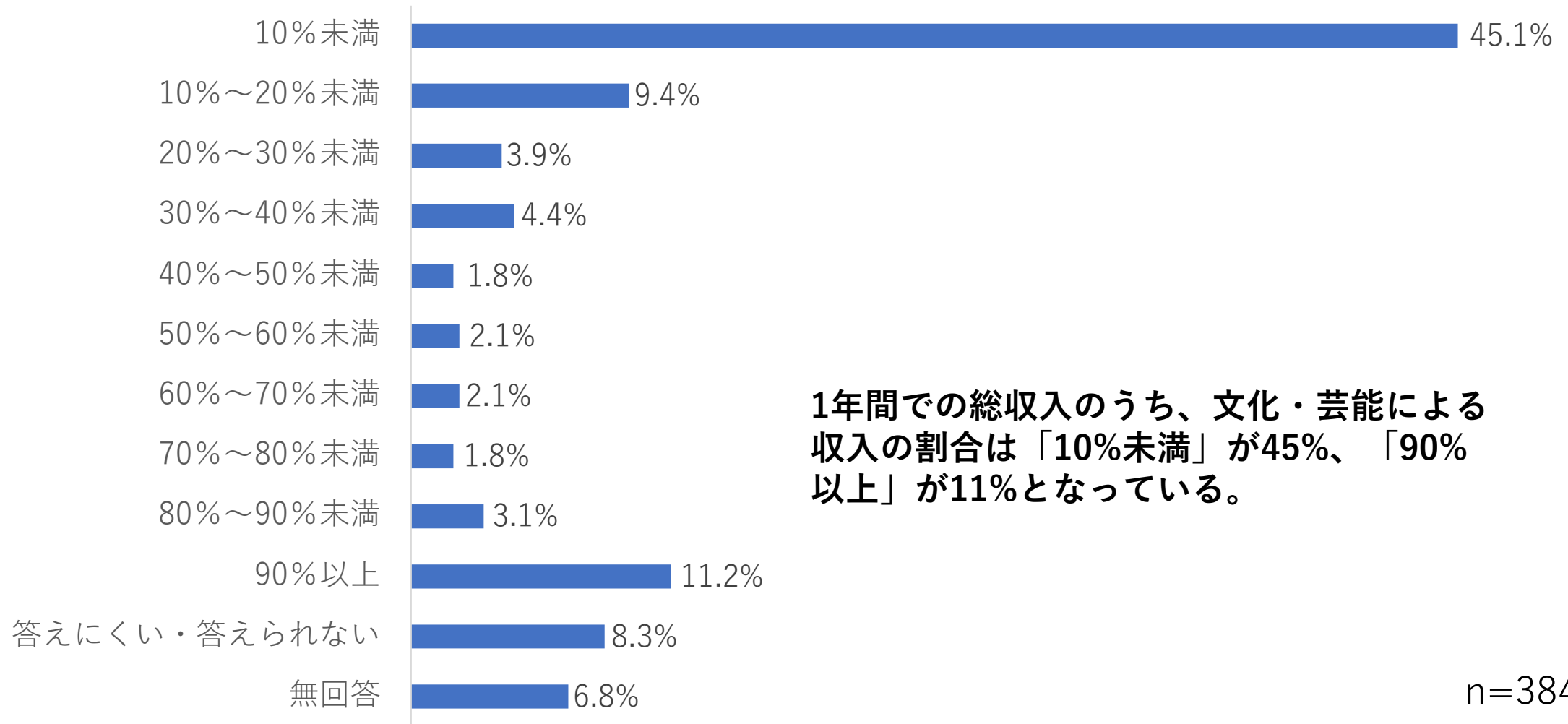
「芸能・芸術活動とは異なる仕事」の雇用形態は、「アルバイト・パート」が32%、「正規雇用」が30%、「非正規雇用」が18%、「経営者・雇用主」が15%となっている。

n=189

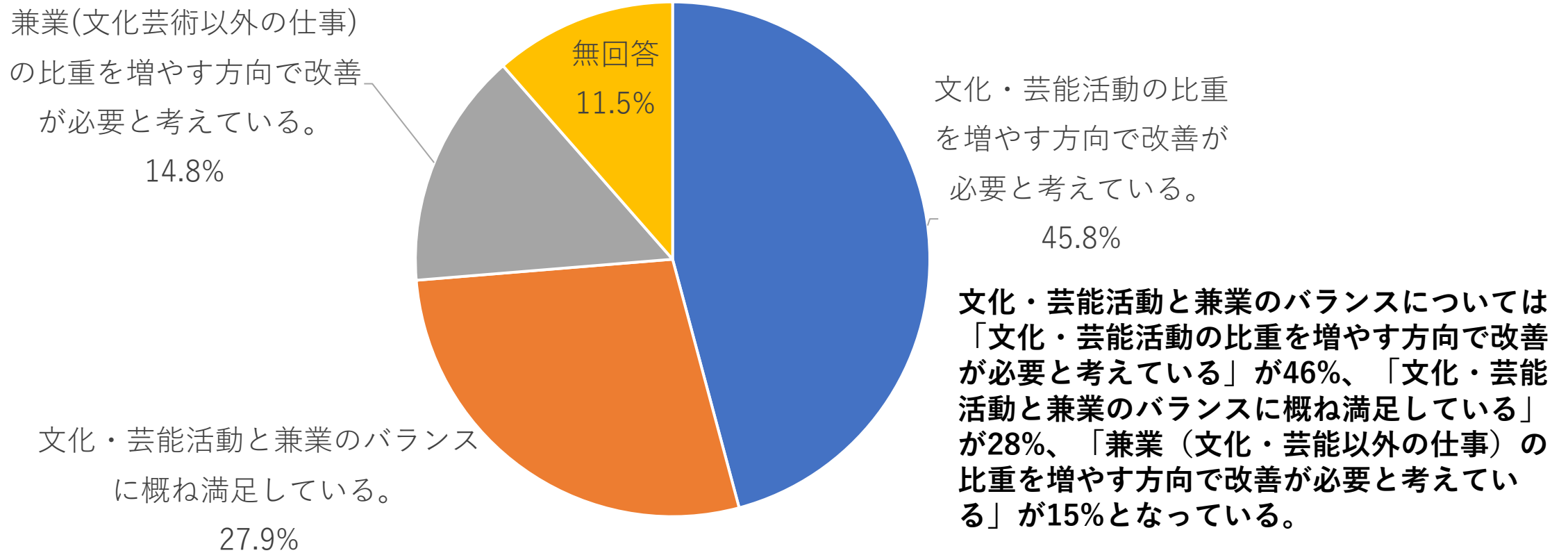
# 昨年分の総収入



# 文化・芸能による収入の割合



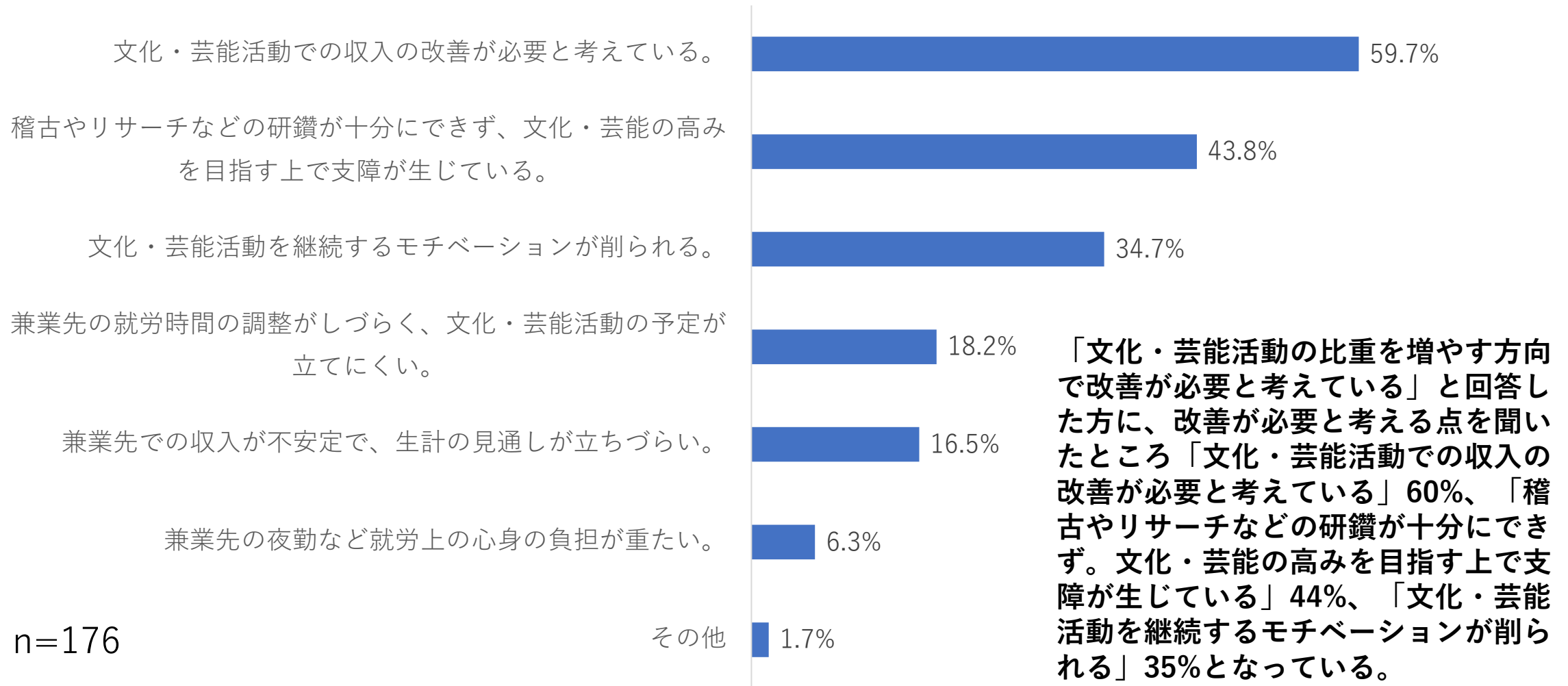
# 文化・芸能活動と兼業のバランス



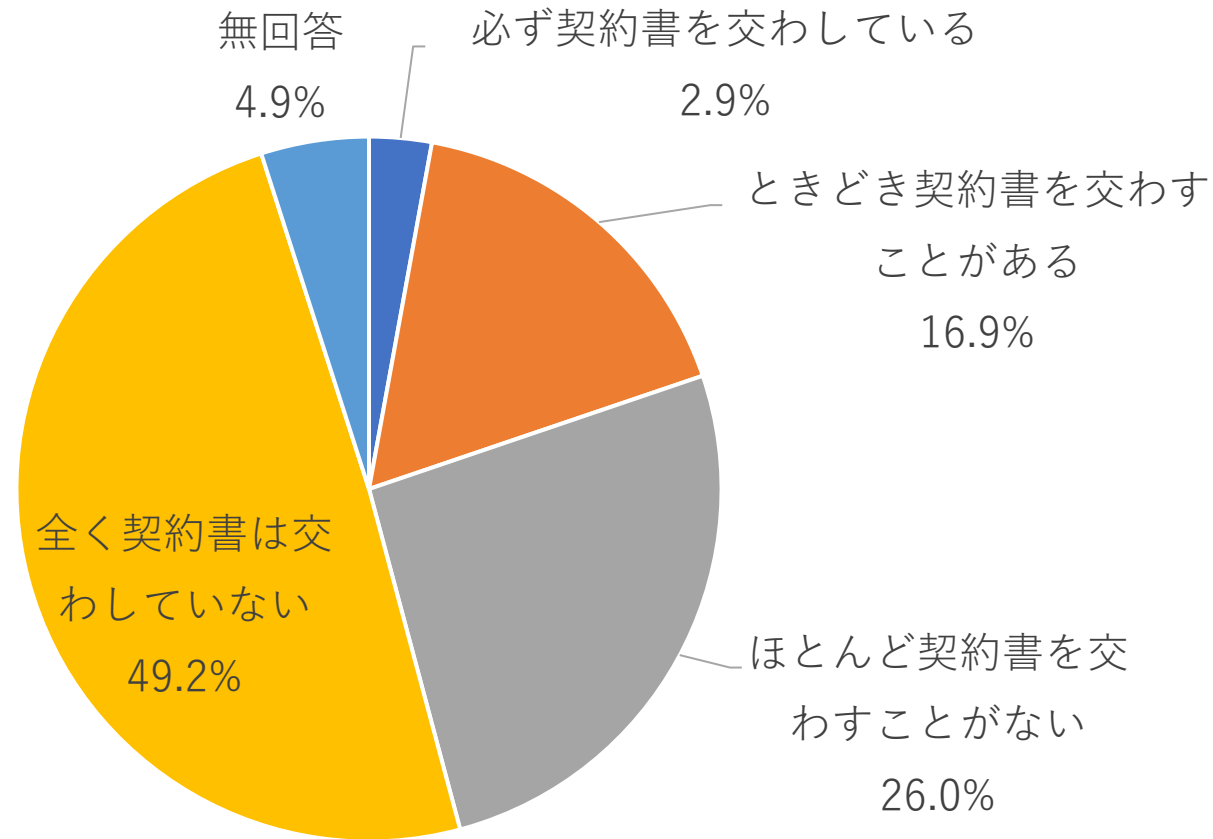
n=384



# 文化・芸能活動の比重を増やす場合に必要と考える改善点



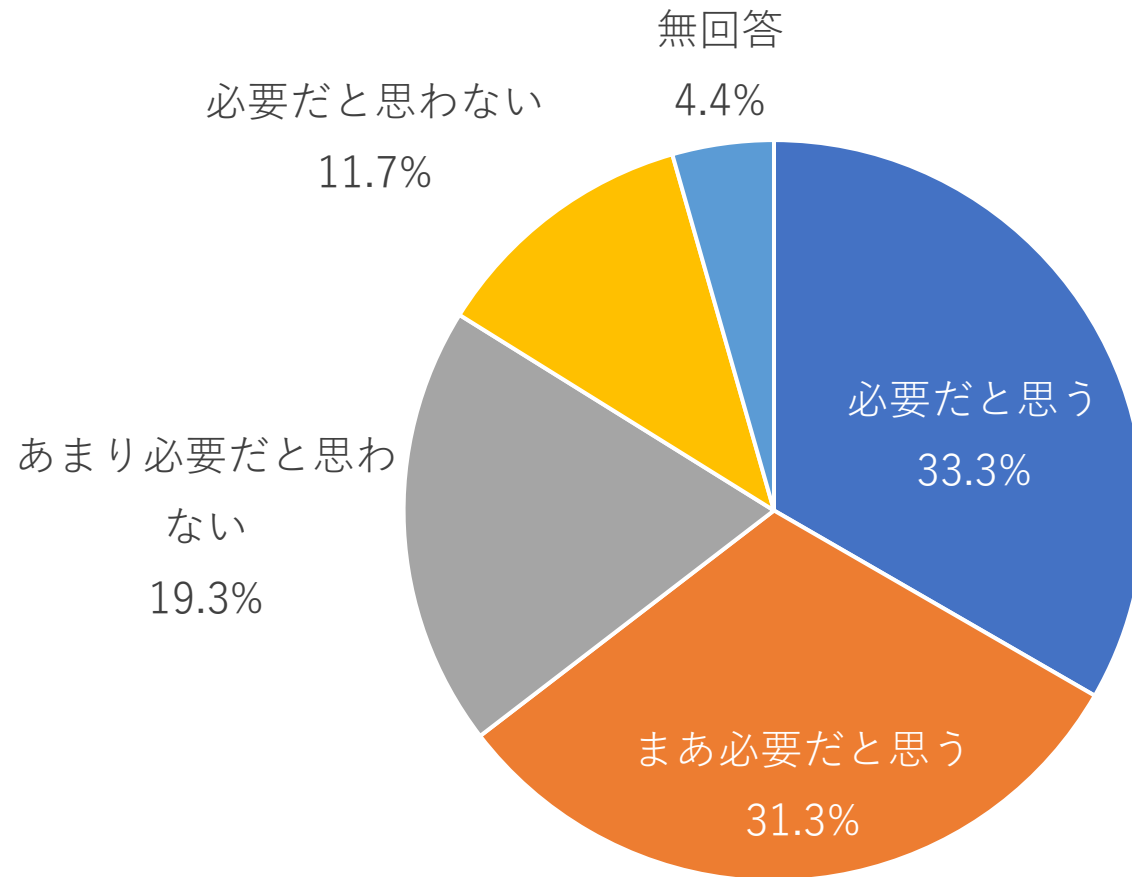
# 契約書を交わしているか



文化・芸能の仕事で契約書を交わしているか聞いたところ、「全く契約書は交わしていない」が49%、「ほとんど契約書を交わすことがない」が26%、「ときどき契約書を交わすことがある」が17%となっている。

n=384

# 契約書は必要と思うか



文化・芸能の仕事をするうえで契約書は必要と思うか聞いたところ、「必要だと思う」が33%、「まあ必要だと思う」が31%、「あまり必要だと思わない」が19%となっている。

n=384

# 3. 仕事の環境

---

# 仕事上の問題

衣装代や機材費など自腹での支出額が多く、報酬額が見合わない場合がある

報酬の金額や報酬に含まれない経費がはっきりと示されないことがある

仕事の内容や拘束時間などの条件がはっきりと示されないことがある

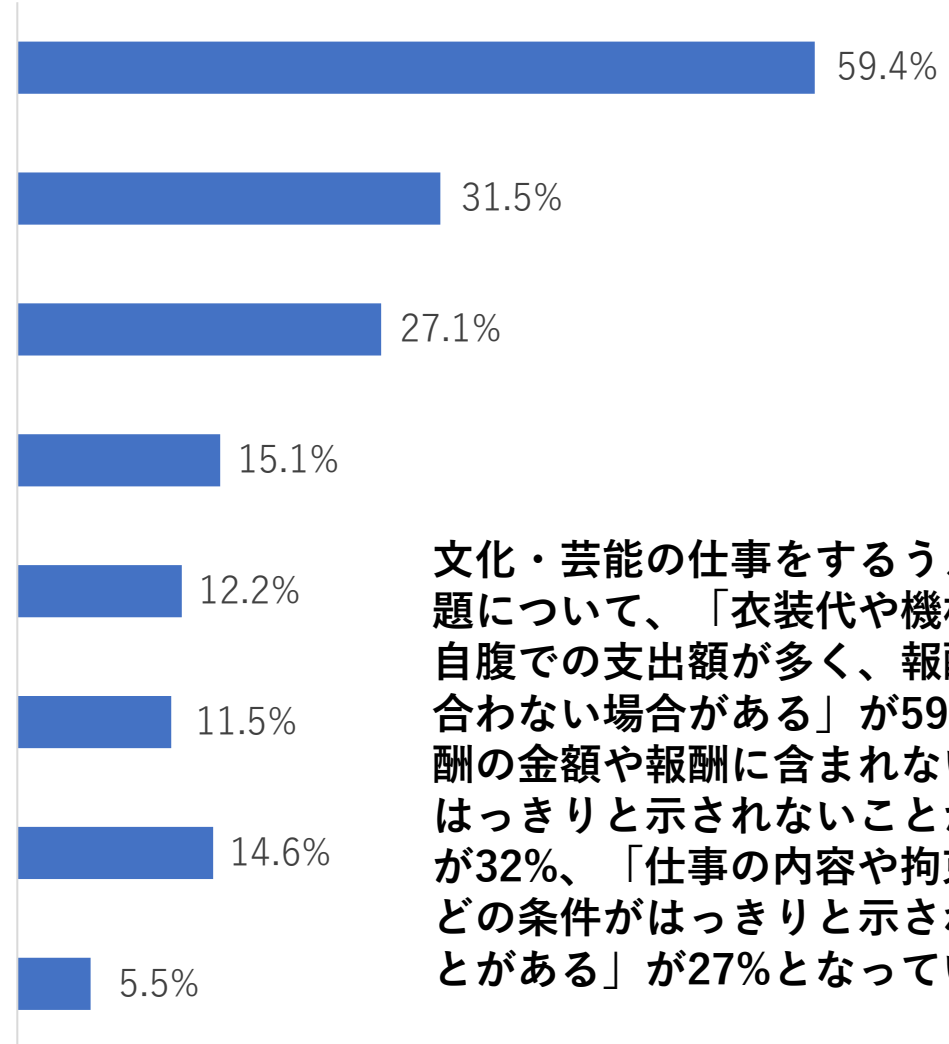
同じ仕事でも報酬の額が下がってきている

報酬の支払いが滞ることがある

トラブルが起きても、泣き寝入りをすることが多い

問題があるとは感じていない

その他

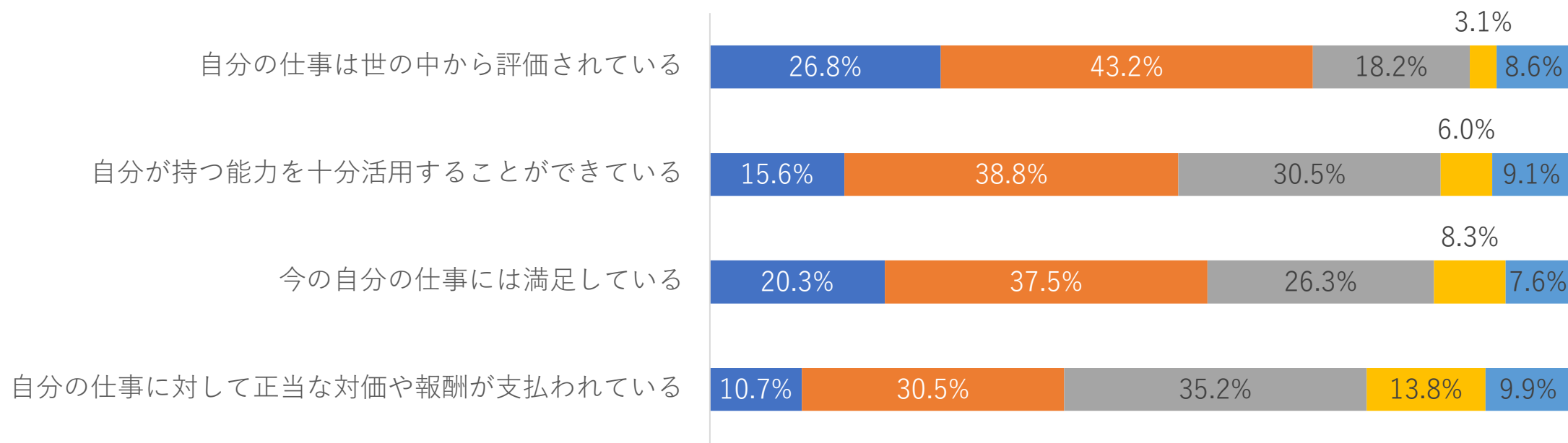


文化・芸能の仕事をするうえでの問題について、「衣装代や機材費など自腹での支出額が多く、報酬額が見合わない場合がある」が59%、「報酬の金額や報酬に含まれない経費がはっきりと示されないことがある」が32%、「仕事の内容や拘束時間などの条件がはっきりと示されないことがある」が27%となっている。

n=384

# 自分の仕事で感じていること

■ そう思う ■ まあそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

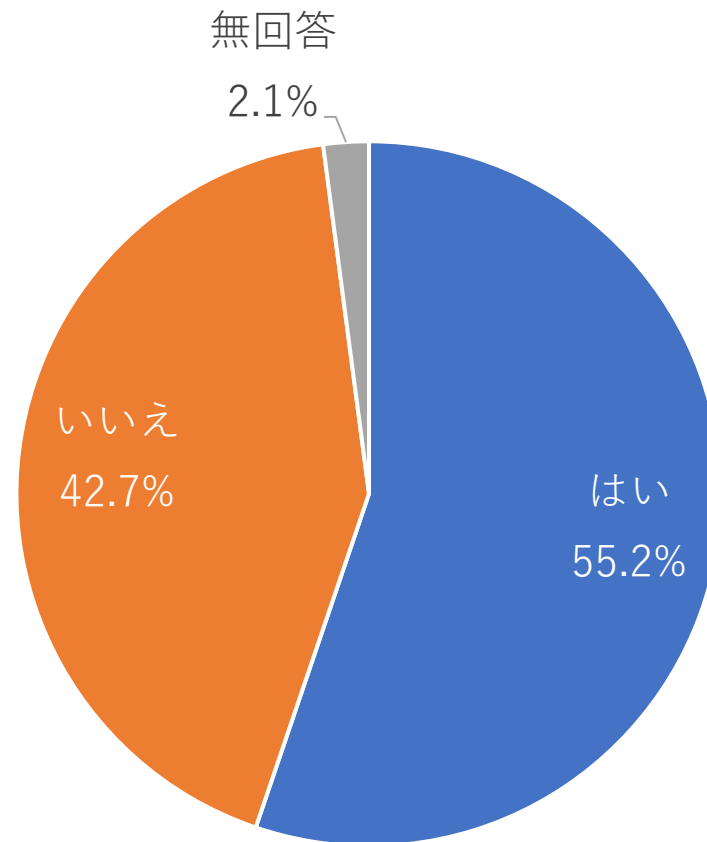


n=384

「自分の仕事は世の中から評価されている」「自分が持つ能力を十分活用することができる」「今の自分の仕事には満足している」の3項目は「まあそう思う」の割合が最も多く、「そう思う」を含めてポジティブな評価が過半の割合となっているが、「自分の仕事に対して正当な対価や報酬が支払われている」については「あまりそう思わない」の割合が最も多く、「そう思わない」を含めたネガティブな評価がポジティブな評価を上回っている。

# 10年後も仕事を続けていると思うか

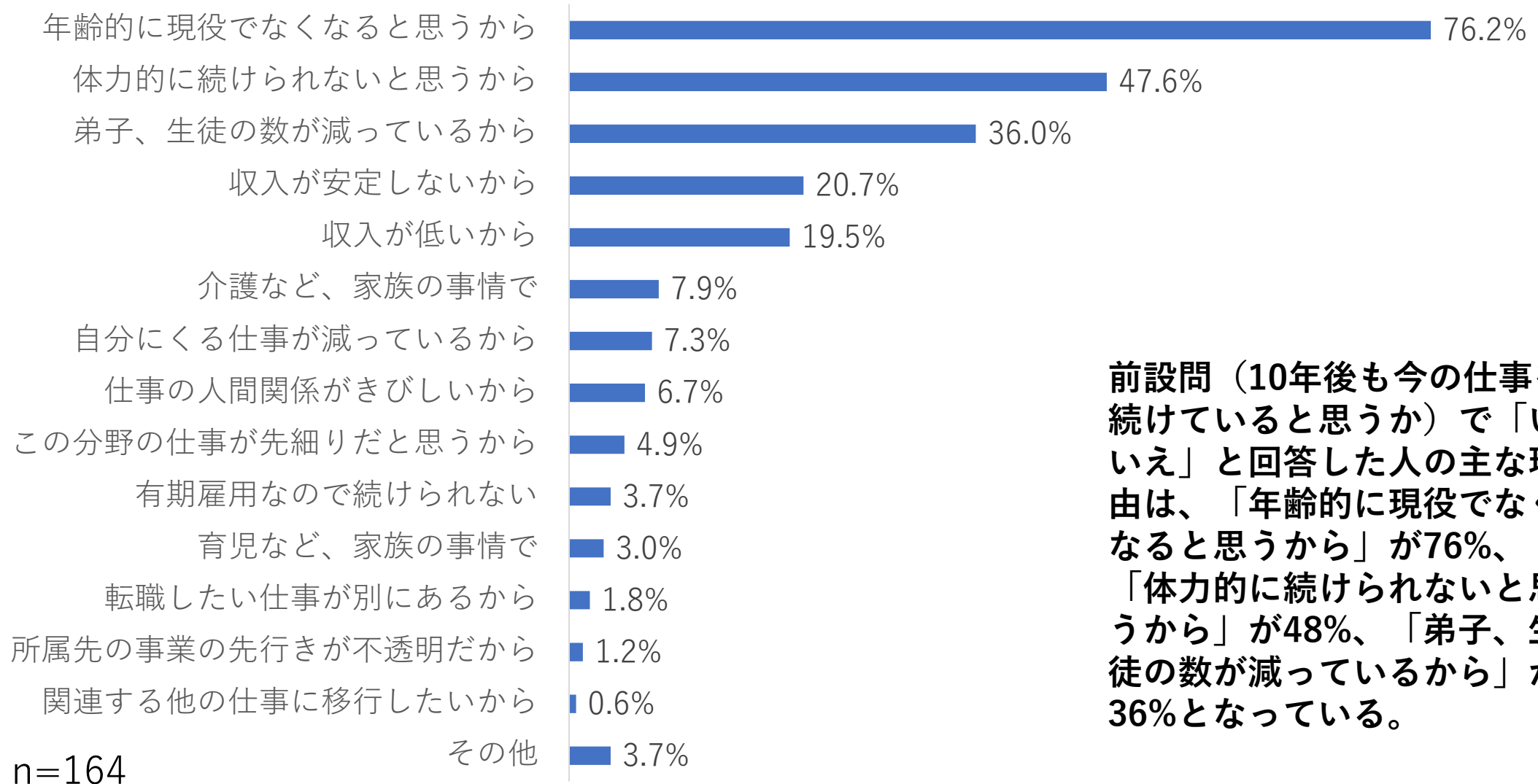
---



10年後も今の仕事を続けていると思うかを聞いたところ「はい」が55%、「いいえ」が43%となっている。

n=384

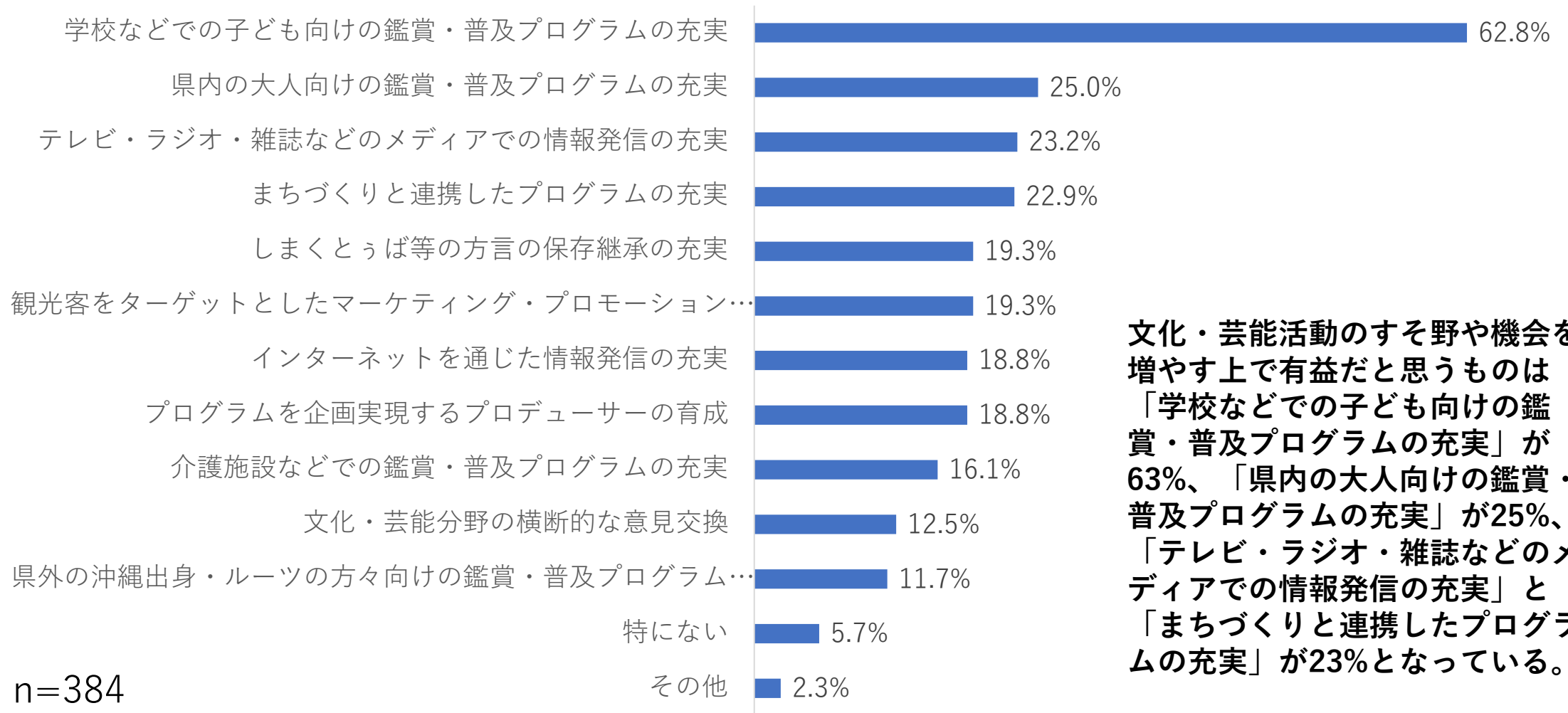
# 10年後に続けていないと思われる理由



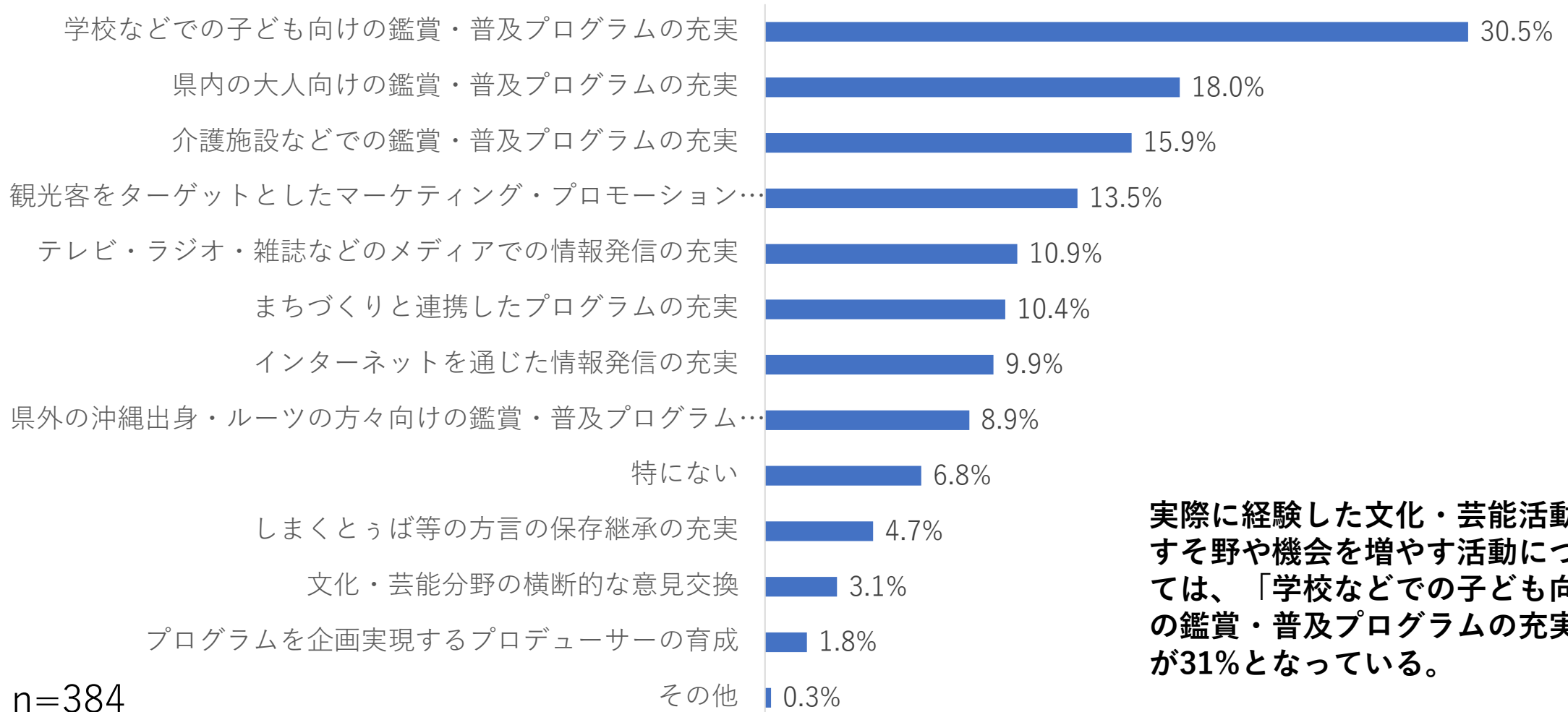
前設問（10年後も今の仕事を続けていると思うか）で「いい」と回答した人の主な理由は、「年齢的に現役でなくなると思うから」が76%、「体力的に続けられないと思うから」が48%、「弟子、生徒の数が減っているから」が36%となっている。



# 活動の裾野や機会を増やす上で 有益だと思えるもの



# 活動の裾野や機会を増やすために 実際に経験したものの



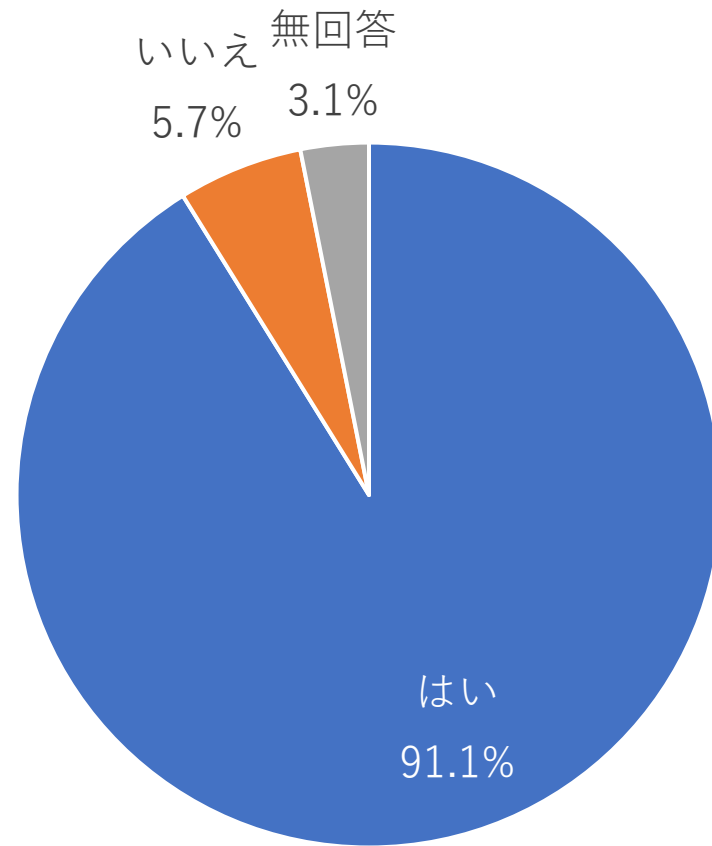
n=384

実際に経験した文化・芸能活動の裾野や機会を増やす活動については、「学校などでの子ども向けの鑑賞・普及プログラムの充実」が31%となっている。

## 4. 新型コロナウイルス関連

---

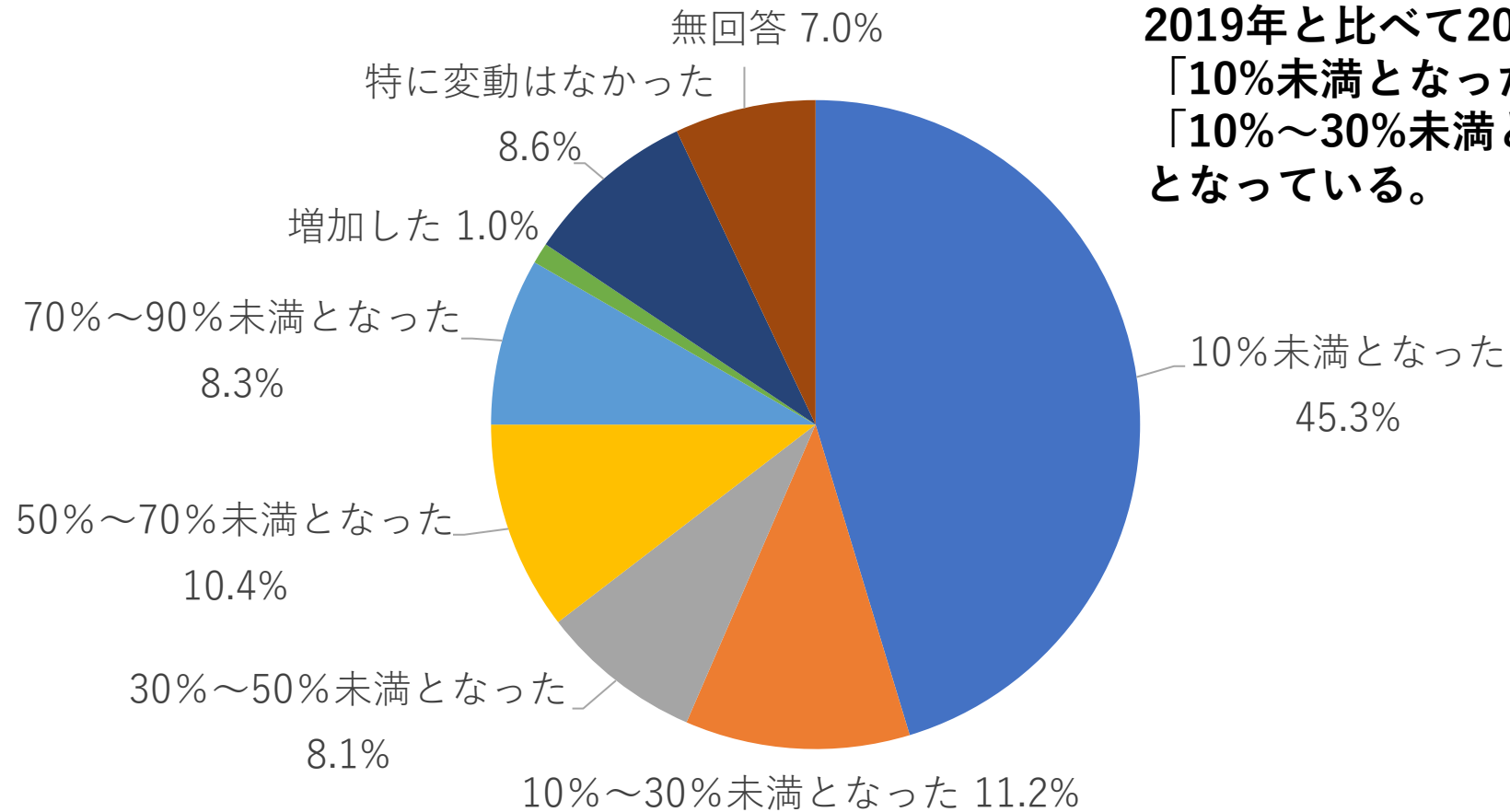
# 新型コロナウイルスの影響で延期または中止された公演、展示、イベント等の有無



n=384

新型コロナウイルスの影響で延期または中止されたものがあるか聞いたところ「はい」が91%となっている。

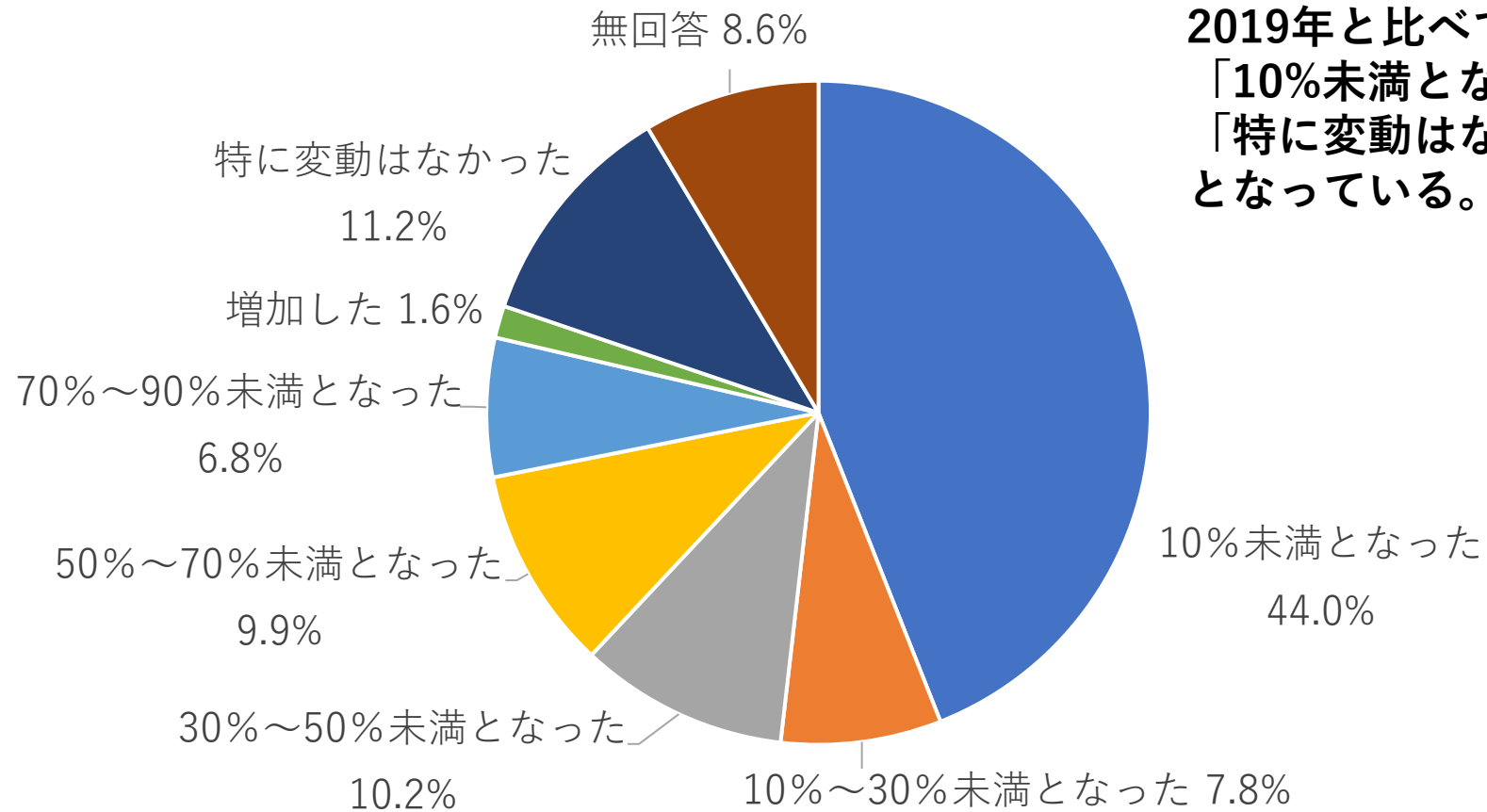
# 前年と比べた2020年の文化・芸能の仕事の数の変動



2019年と比べて2020年の仕事の数は、「10%未満となった」が45%、「10%~30%未満となった」が11%となっている。

n=384

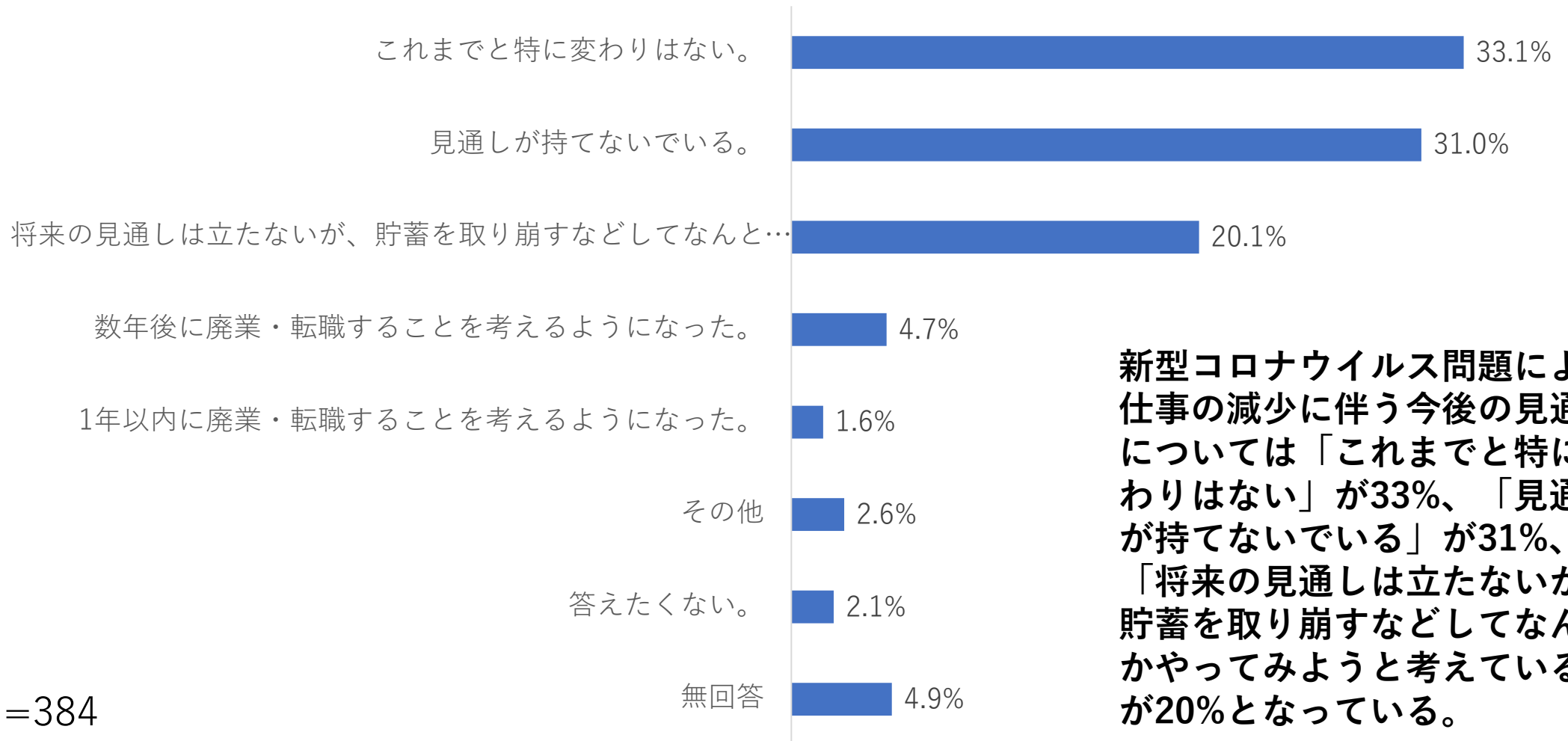
# 前年と比べた2020年の文化・芸能の収入の変動



2019年と比べて2020年の収入は「10%未満となった」が44%、「特に変動はなかった」が11%となっている。

n=384

# 新型コロナウイルス問題による 仕事の減少に伴う今後の見通し



新型コロナウイルス問題による  
仕事の減少に伴う今後の見通し  
については「これまでと特に変  
わりはない」が33%、「見通し  
が持てないでいる」が31%、  
「将来の見通しは立たないが、  
貯蓄を取り崩すなどしてなんと  
かやってみようと考えている」  
が20%となっている。

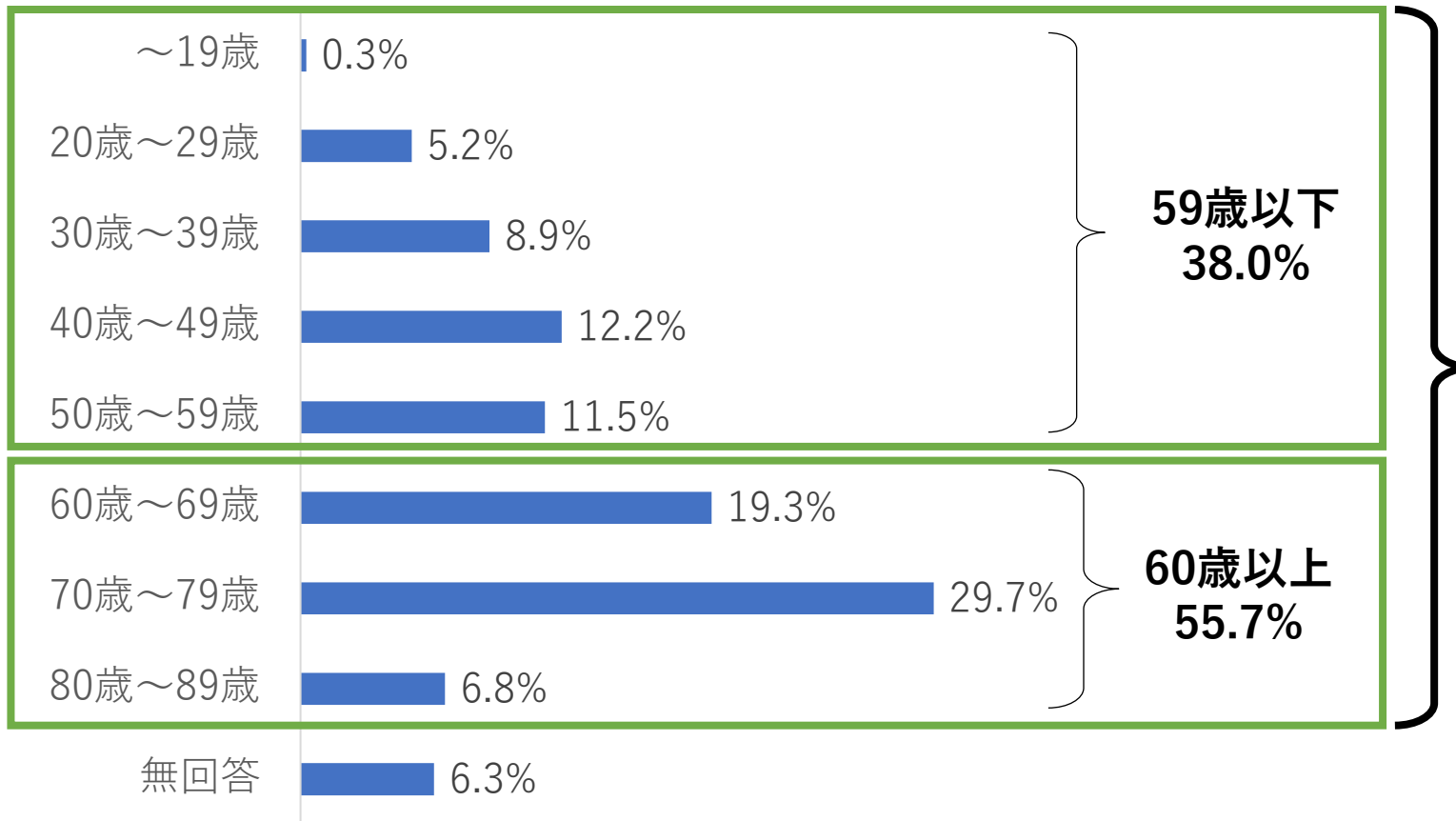
n=384

# 年代によるクロス集計

---



# 年代の分析区分

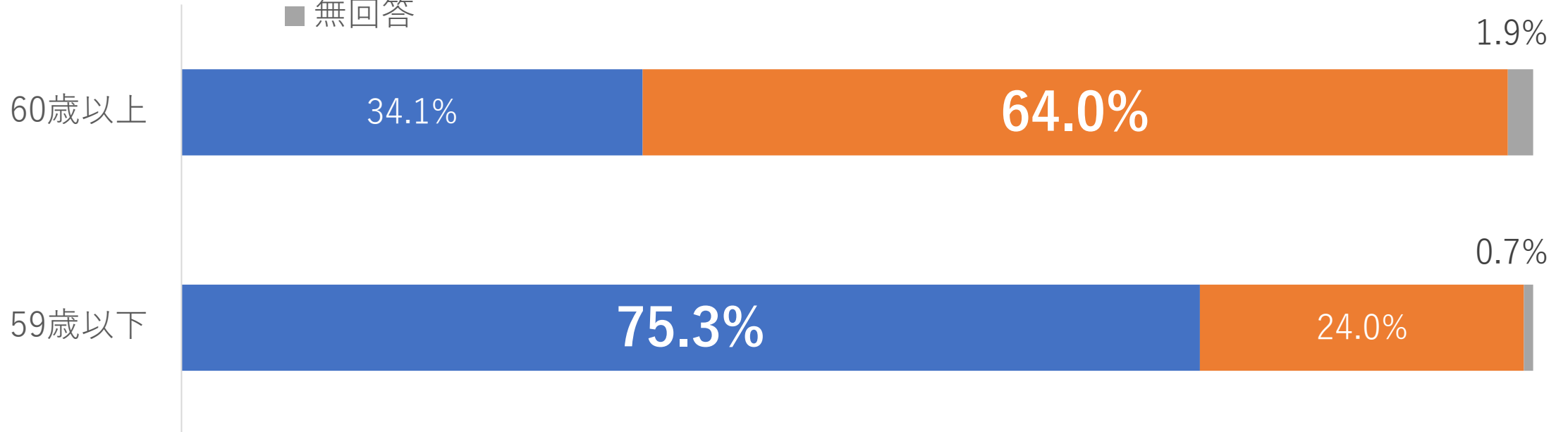


「60歳以上」と「59歳以下」で  
傾向の違いを分析

n=384

# 年代×専業・兼業の区別

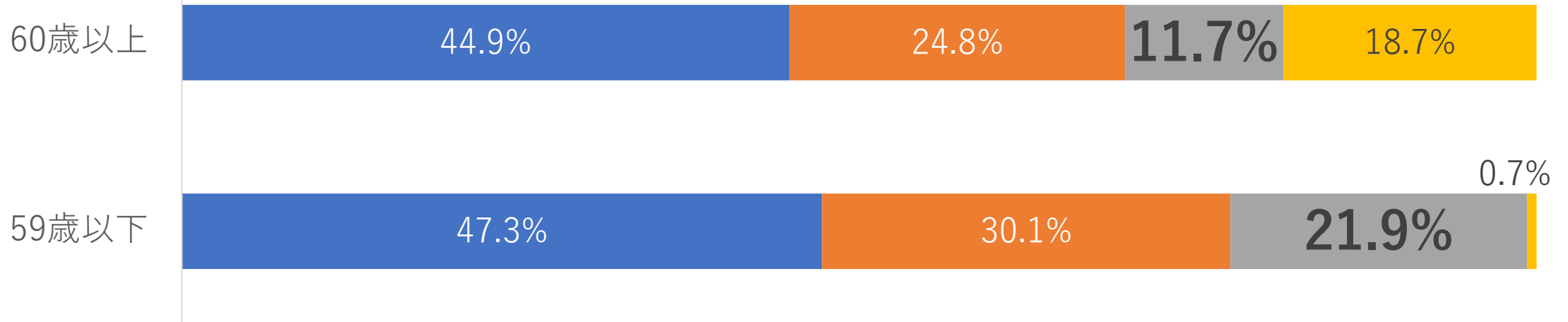
- 芸能・芸術活動とは異なる仕事をしている
- 芸能・芸術活動のみしている（技芸を教える仕事等を含む）
- 無回答



60歳以上では「芸能・芸術活動のみしている（専業）」が64%で「芸能・芸術活動とは異なる仕事をしている（兼業）」を上回るが、59歳以下では「芸能・芸術活動とは異なる仕事をしている（兼業）」が75%で「芸能・芸術活動のみしている（専業）」を上回っている。

# 年代×今後の活動の比重

- 文化・芸能活動の比重を増やす方向で改善が必要と考えている。
- 文化・芸能活動と兼業のバランスに概ね満足している。
- 兼業(文化芸術以外の仕事)の比重を増やす方向で改善が必要と考えている。
- 無回答



「兼業（文化芸術以外の仕事）の比重を増やす方法で改善が必要と考えている」が、60歳以上では12%だが、59歳以下では22%と逆転している。

# 年代×仕事上の問題

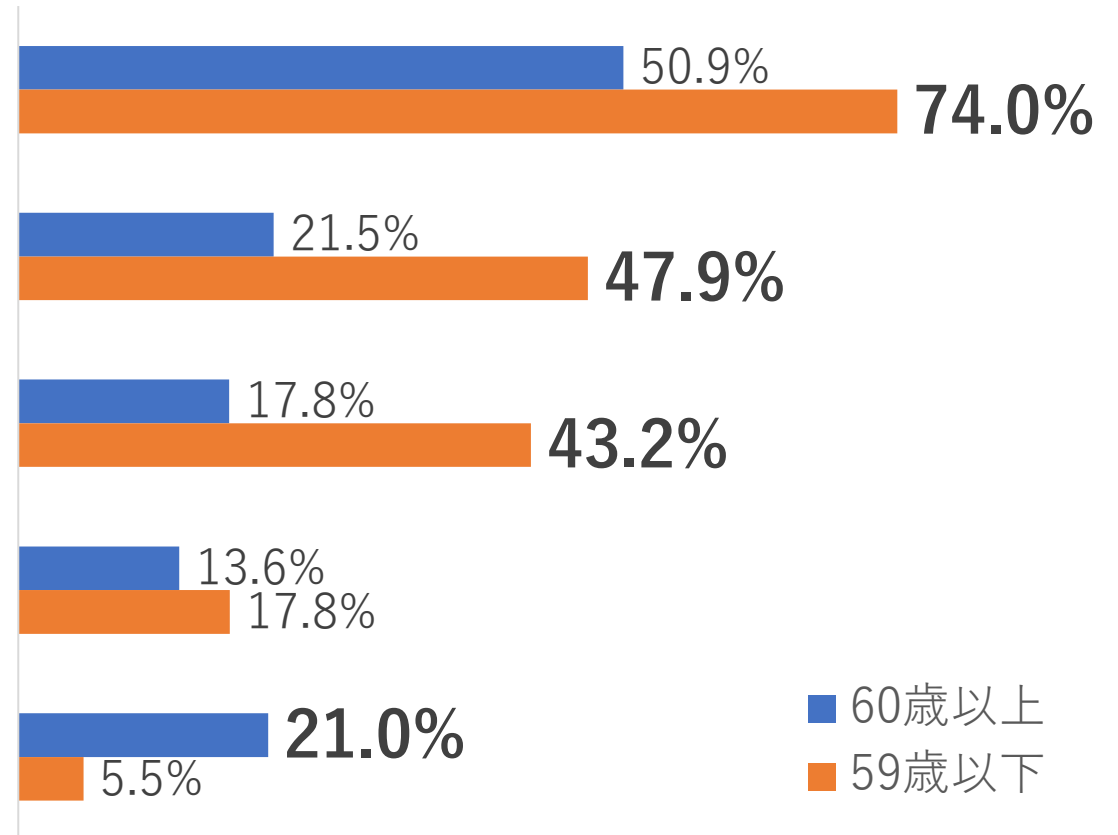
衣装代や機材費など自腹での支出額が多く、報酬額が見合わない場合がある

報酬の金額や報酬に含まれない経費がはっきりと示されないことがある

仕事の内容や拘束時間などの条件がはっきりと示されないことがある

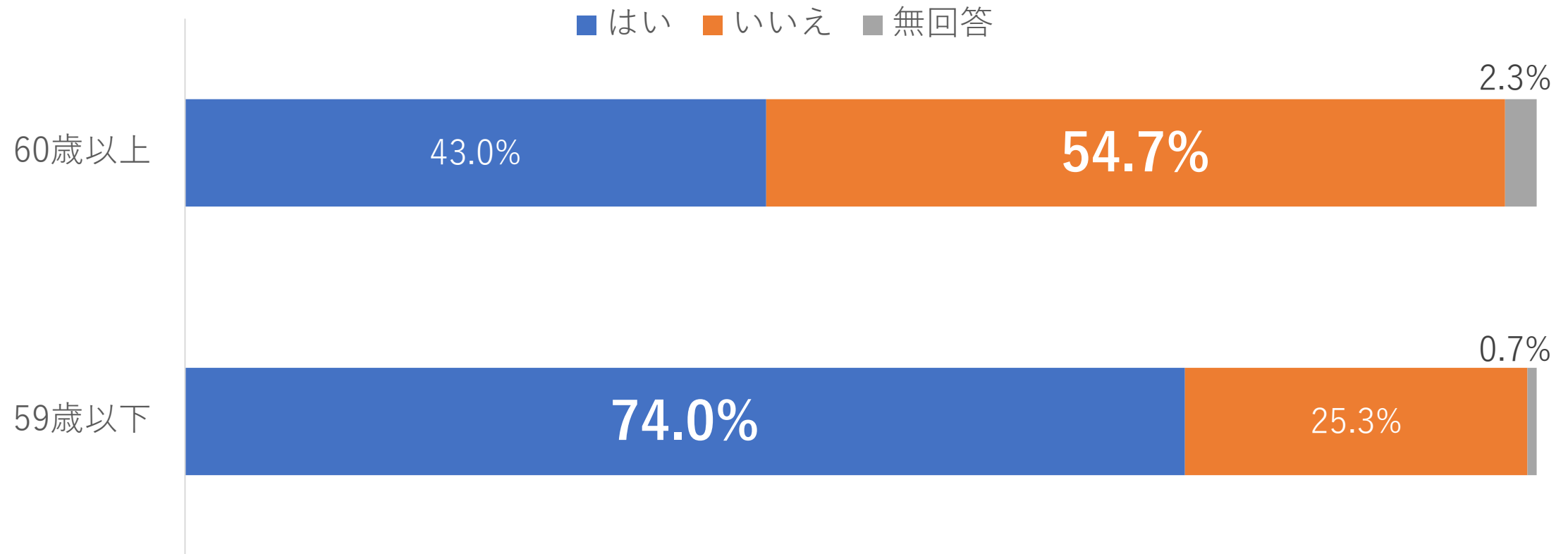
同じ仕事でも報酬の額が下がってきている

問題があるとは感じていない



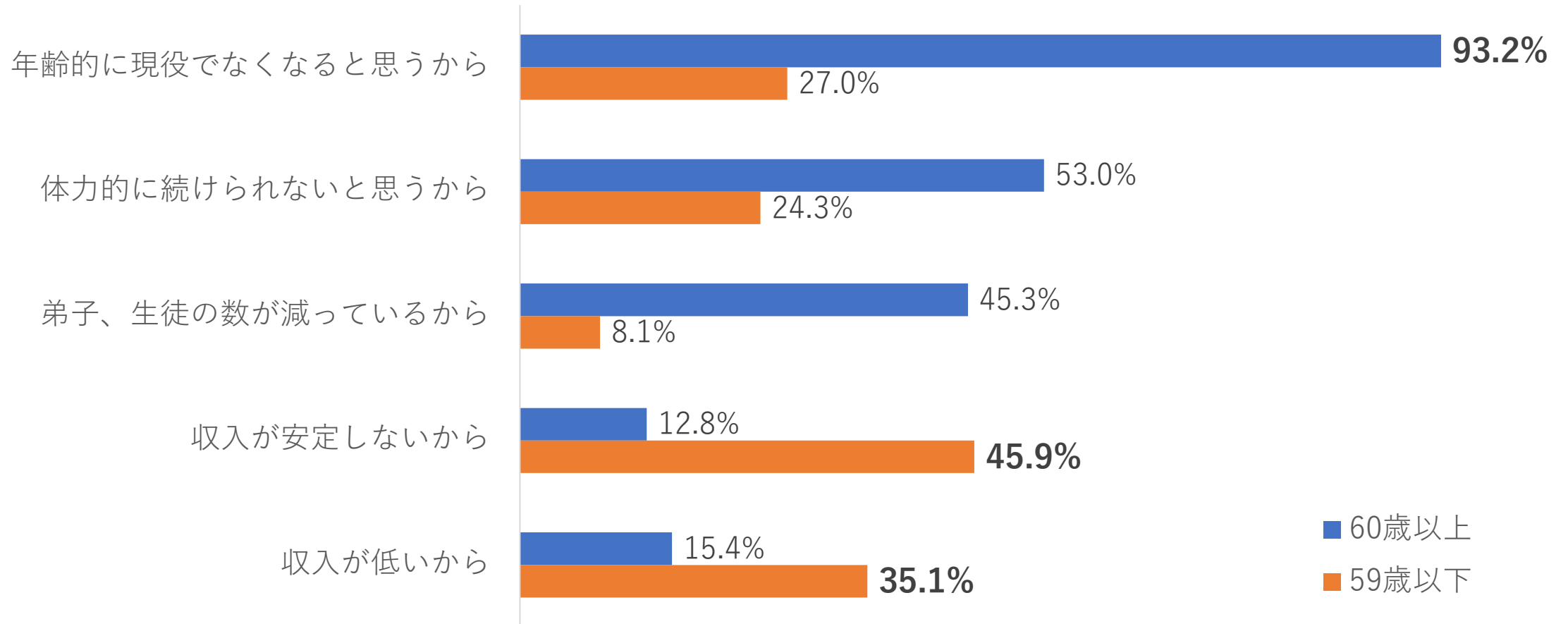
提示した8の項目のうち上位5項目について分析したところ、60歳以上が59歳以下に比べて割合が高かったのは「問題があるとは感じていない」で、それ以外の4項目は59歳以下が60歳以上の割合を上回っている。

# 年代×10年後も続けていると思うか



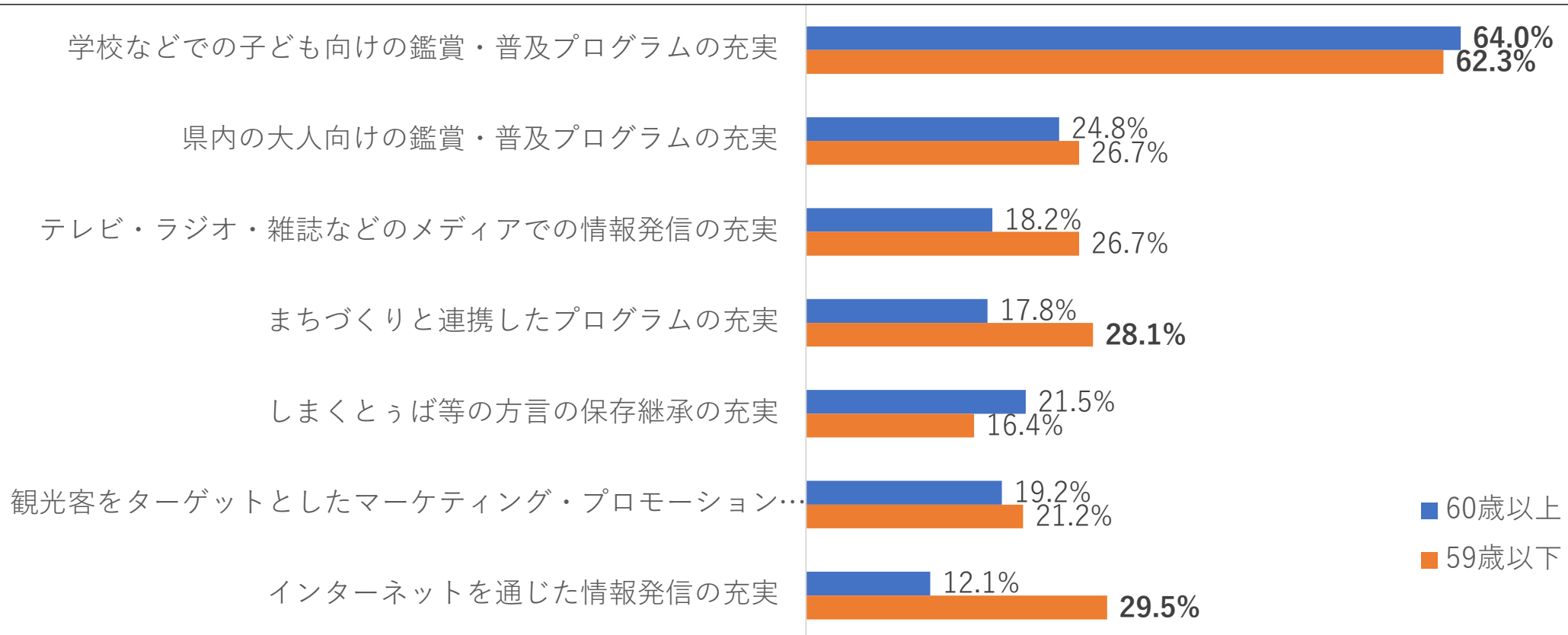
10年後も今の仕事を続けていると思うかを聞いたところ60歳以上は「いいえ」が55%、59歳以下は「はい」が74%となっている。

# 年代×続けられない理由



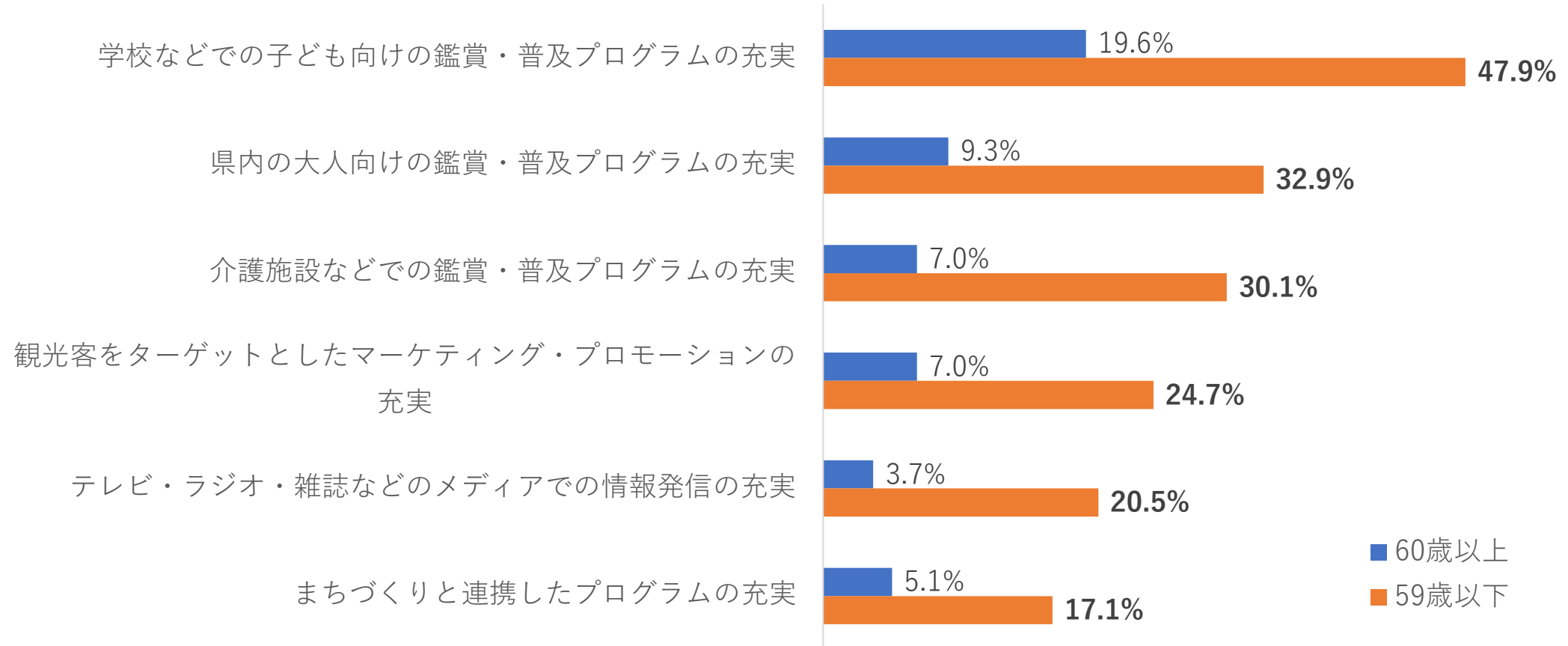
10年後も今の仕事を続けていると思わない回答者の続けられない理由は、60歳以上の最も多い回答は「年齢的に現役でなくなると思うから」が93%で、59歳以下の最も多い回答は「収入が安定しないから」が46%となっている。

# 年代×活動の裾野や機会を増やす上で 有益だと思えるもの



活動の裾野や機会を増やす上で有益だと思えるもの（上位7項目）は、60歳以上と59歳以下に共通して最も多い回答が「学校などでの子ども向けの鑑賞・普及プログラムの充実」となっている。「インターネットを通じた情報発信の充実」は59歳以下が30%で、60歳以下との差が大きい。

# 年代×活動の裾野や機会を増やすために あなたが実際に経験したものの



活動の裾野や機会を増やす上で実際に経験したものの（上位6項目）を60歳以上と59歳以下で比較すると、どの項目も59歳以下が60歳以上を大きく上回っている。



考察

---

# 考察 (1/3)

---

- 今回の調査の回答者の9割は伝統芸能実演家となっているため、その分野での活動実態の現状課題が現れた結果となっている。
- 芸能・芸術活動の専業と兼業の割合は拮抗しており、総収入に占める芸能・芸術活動の収入の割合が低いことや、契約に関する意識と実態の乖離からも「職業」としての自覚が持ちにくいことが見受けられる。

## 考察 (2/3)

---

- また、回答者全体の年代としては高齢者層に偏りがあるため、若年層や中堅層の実態を把握するために、単純集計だけではなく、59歳以下と60歳以上を区別したクロス集計を行った。
- 59歳以下と60歳以上では現状課題やその要因の認識、活動の裾野や機会を増やすために実際に経験していることに大きな差が見られた。

## 考察 (3/3)

---

- とくに「10年後も仕事を続けていると思うか」で「いいえ」と回答した59歳以下の理由が「収入が安定しないから」「収入が低いから」といった収入の問題であることは、活動の当事者だけでなく、業界全体として深く認識すべき課題である。
- 今後は業界として現状課題を掘り下げると同時に、教育や観光といった関連領域とも課題を共有するために、さらなる調査を展開していくことが望まれる。